

障がい者フライングディスク競技規則

1989年8月制定
1994年9月改定
1999年6月改定
2011年4月改定
2016年4月改定

総則(アキュラシー競技・ディスタンス競技共通)

1 種目

- (1) アキュラシーのディスリート・ファイブ、ディスリート・セブンとディスタンスとする。

2 組合せ

すべての障がい者が対象であり、障がいによるクラス分けはしない。

- (1) 年齢区分
少年①12～14歳 少年② 15～19歳 青年①20～27歳 青年② 28～35歳
壮年① 36～45歳 壮年② 46～60歳 壮年③ 61歳以上
- (2) 毎年4月1日現在で12歳以上とし、上限はない。
- (3) 各組の組み合わせは、年齢区分毎の年齢順により行う(原則1組8名までとする)。
- (4) 8名の組み合わせにおいて、同じ団体所属の選手が多くなならない様に可能な限り配慮することが望ましい。

3 競技場

- (1) 競技場は、平坦かつ障害物のない地域でなければならない。よく手入れされた芝生が最も望ましい。
- (2) 競技を妨げるような固定された障害物がある場合は、影響が少ないようにスローイングの位置を考慮する。
- (3) 主催者は、アキュラシー競技場内で競技に支障のない場所、又は競技場に隣接した場所に可能な限り同じ風向きにより設定された練習場を設けなければならない。ただし、ディスタンス競技は練習場を設けることが望ましい。
- (4) サイト(1プレーヤーが競技する競技場)の設置は追い風を原則とする。
- (5) 競技場及び練習場のサイトに「吹き流し」を設置する。

4 用具

- (1) 競技用ディスクは、日本障害者フライングディスク連盟公認の「ファストバックモデル」ディスクで直径23.5cm、重量100±5gとする。
- (2) スローイングアシストライン(視覚障がい者用補助具)は、直径1.5cm、長さ50cmのプラスチック製丸棒。

5 競技

- (1) 投げ方は自由とする。手、足、口等、身体のある部分によるスローイングを認める。
- (2) 視覚障がい者や車いす使用者が、容易にスローイングができるように、スローイングラインのプレーヤー側の側面に触れてもよい。ただし、試技の前後にかかわらず、スローイングラインを踏む、又は踏み越えた場合は、フットファールとなる。
- (3) 左利きのプレーヤーには、大会主催者が定めたリボン等(赤色系約2cm×8cm)をゼッケンの右上につける。

6 記録

- (1) 大会記録として記録の認定が必要である。競技規則に準じて認定される。
- (2) 日本パラスポーツ協会が各競技別障がい者スポーツ団体と協力して公表する記録は、それぞれの競技規定に従うものであり、全国大会の記録が必ずしも日本記録・日本最高記録として公認されるものではない。

7 介助者

- (1) 介助者としてプレーヤーと競技場内に同行することができる。
- (2) 肢体不自由のプレーヤーで移動・歩行に介助を必要とする場合の「介助者申請」については、会場状況や天候などにも考慮して原則として主催者がサポートを代行することがある。
- (2) プレーヤーが視覚障がい者の場合、介助者をスローイングエリア内に1名同行することができる。
その際、伝えられるのはアキュラシーでは投げる方向、通過・不通過の状況のみである。
ディスタンス競技では、ディスクの飛行方向と飛距離の情報のみである。介助者は技術的な助言等は行ってはならない。度重なる違反については、主審が退場を命じることができる。
- (4) 許可された介助者は、貸与されたビブスを着用して指定された場所(原則、ウェイティングライン)まで入場できる。

8 補装具

- (1) 法律に基づく義肢、装具、杖、補聴器などの補装具の制限はされないが、身体の一部として取り扱う。
- (2) ディスクの推進力、回転力を促進する機能のあるものは認めない。かつ、スローイングの助けとなるなどのような工夫もしてはならない。
- (3) 手指等の傷口を守るためにテープ等を使用する場合、審判長の許可を得なければならない。
- (4) 競技に使用する車椅子(椅子なども含む)のシートの高さは、クッションを含め75 cm以下とする。
- (5) 競技中(最終点呼終了以後)に、車椅子を修理するための時間を要求することはできない。
- (6) 車椅子使用者以外のプレーヤーが座って競技する場合、プレーヤーの申し出により、主催者は「パイプ椅子」を用意する。

9 抗議

- (1) 試技中の行為又は競技の結果に関する抗議は順位決定後30分以内に、プレーヤー自身又はプレーヤーに代わる責任ある役員が競技委員長、審判長、主審のいずれかに対し口頭でしなければならない。試技中は抗議できないものとする。主催者は、順位決定の時刻を記録しておかなければならない。順位決定時刻とは「記録用紙」の記録掲示時間欄の時刻のことである。(記入は、記録委員が表彰や掲示等の所用時間(約15分)を加算して行う。)
- (2) 抗議の裁定は、競技委員長、審判長、主審、副審により協議され、競技委員長が行う。
- (3) 裁定結果は、プレーヤー自身またはプレーヤーに代わる責任ある役員に対し、競技委員長が通告する。
- (4) 抗議が正当なものであると認められた場合は、次のように対応する。
 - ① プレーヤーが不利にならない方法で対処する。
 - ② 記録の訂正を行う。
- (5) 裁定結果は最終のものであり再抗議は認められない。

アキュラシー競技

1 競技場

アキュラシーゴールと隣のゴールとの間隔は5 m以上とする。

2 用具

(1) アキュラシーゴール(標的)(判定用フラッグ付き)

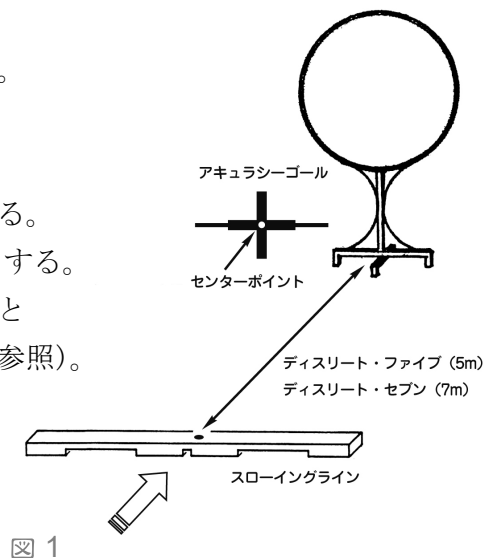
- ① 材質：鋼鉄製で円形部はオレンジ色焼付塗装仕上げとする。
- ② 形状：内径 91.5 cmの円形とする。パイプ径は、2.5 cmとする。
- ③ 位置：アキュラシーゴールの前面がスローイングラインと平行に設置する。高さは外径の最下部が 61 cmとする(図 1 参照)。

(2) スローイングライン(足留材)

- ① 材質：プラスチック製又は木製の白色とする。
- ② 形状：長さ 160 cm、幅 6 cm、高さ 4 cmとする。
- ③ 止め方：競技場に完全に固定する。

(3) スローイングアシストライン

スローイングアシストラインは、スローイング方向が分かるように、スローイングライン中央からアキュラシーゴール方向に直角に設置する。プレーヤーの申し出により前後に移動したり、取り外しても良い。



3 競技

(1) 種目

- ① ディスリート・ファイブ：スローイングラインの中央よりアキュラシーゴールまでの距離を 5 mとする。
- ② ディスリート・セブン：スローイングラインの中央よりアキュラシーゴールまでの距離を 7 mとする。

(2) 競技方法(両方に参加することはできない。)

- ① 試技は 10 投連続して行う。
- ② プレーヤーが視覚障がい者の場合は、競技役員がアキュラシーゴール後方 3mの距離から電子音によって、アキュラシーゴール中心部の位置を知らせることができる。音源は、プレーヤーが聞こえる程度の音量とし、プレーヤーの手からディスクが離れるまで鳴らす。
- ③ 主催者は競技運営等の都合により、プレーヤーが 1 投目のディスクを受け取ってから 5 分の制限時間を設けることができる。5 分をこえた試技は無効とする。これは競技者がまったくディスクを投げようとしなない事態が生じることに対処するためのものである。残り時間が 30 秒の時点で、30 秒前であることをプレーヤーに伝え終えなければならない。制限時間内に投げ終わらなかった場合は、それまでの成績を記録とする。

(3) 記録・得点

得点は、ディスクが地面に触れずに直接、アキュラシーゴールを通過した回数とする。逆方向から通過した場合は得点とならない。

(4) 順位の決定

- ① 順位は、得点の多さで決定する。
- ② 同得点の場合は、第 1 得点を先に挙げた者を上位とする。第 1 得点と同じ場合は、順次、得点

を先に挙げた者を上位とする。

- ③ ②の方法によって1位、2位、3位が決定しない場合は、1セット3投の再投(追加試技)を行い得点の多さで順位を決定する。ただし、4位以下の者で同得点の場合は、再投は行わず、同順位とする。
- ④ ③の方法によって再投を行った結果、同得点となり1位、2位、3位が決定しない場合は、②の方法によって順位を決定する。
- ⑤ 再投は、順位が決定するまで行い、最大5セットまでとする。
- ⑥ ⑤の方法によっても順位が決定しない場合は、同順位とする。

(例)

ゼッケン	氏名	都道府県	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	得点	再投			順位
														1	2	3	
078	A	東京	×	○	×	○	○	×	○	×	×	○	5	○	×	×	4
227	B	熊本	×	○	×	○	○	×	○	×	×	○	5	○	×	○	3
559	C	群馬	×	F	○	○	○	×	○	○	○	×	6				1
372	D	秋田	○	○	×	×	○	F	×	×	○	○	5				2

(5) 反則(フットファール)

試技中に身体の一部や補装具(いす等を含む)がスローイングラインのプレーヤー側の側面以外に触れたとき、又はスローイングラインを踏みこえた時。ただし、車椅子のフットレストがスローイングラインの上方空間に出ることは反則としない。反則のあった試技は1投の試技とみなすが、得点は無効とする。

ディスタンス競技

1 競技場

- (1) 1 サイトは横 20m以上、縦 60m以上とする。
- (2) スローイングエリアは、スローイングラインとスローイングエンドラインの幅 1.8m とする。
(図 2 参照)

2 用具

- (1) スローイングラインの材質等は、アキュラシーと同様のものを使用するが、スローイングラインとスローイングエンドラインを設ける。(図 2 参照)
- (2) スローイングアシストラインは、視覚障がい者にスローイング方向が分かるようにアキュラシー競技と同様に扱う。

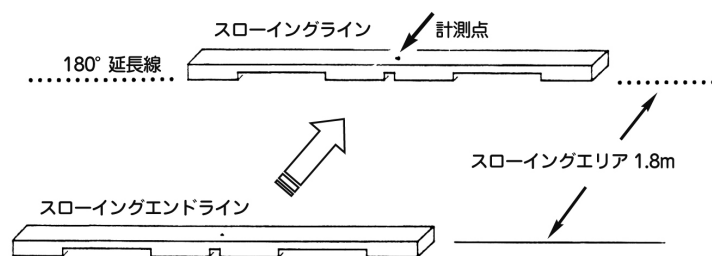


図 2

3 競技

- (1) 種目 次の 4 つの区分に分けて行う。

- ① 座位女子(レディース・シティング)
- ② 座位男子(メンズ・シティング)
- ③ 立位女子(レディース・スタンディング)
- ④ 立位男子(メンズ・スタンディング)

(2) 競技方法

- ① プレーヤーはスローイングエリア内で試技をしなければならない。
- ② プレーヤーは試技の前に 1 投の練習をしなければならない。練習用ディスクは競技用と同規格のもので色は黄色とする。
- ③ 試技は 3 投連続で行う。
- ④ 投げられたディスクの有効範囲は、競技フィールド前方 180°とする。
- ⑤ 距離の計測は、スローイングラインの中央の計測点から、ディスクが最初に地面に触れた点までとする。(図 3 参照)

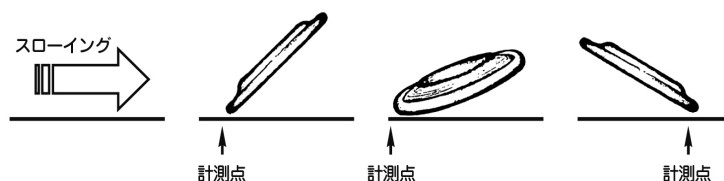


図 3

- ⑥ 主催者は、競技運営等の都合により、プレーヤーが 1 投目のディスクを受け取ってから 3 分の制限時間を設けることができる。3 分をこえた試技は無効とする。これは競技者がまったくディスクを投げようとしない事態が生じることに対処するためのものである。残り時間が 30 秒の時点で、30 秒前であることをプレーヤーに伝え終えなければならない。制限時間内に投げ終わらなかった場合は、それまでの最長距離を記録とする。

(3) 記録

- ① 記録は、3投の試技で最も距離の遠い着地点を計測する。
- ② 計測はcm単位とし、1cm未満は切り捨てる。記録は13m57というように記入する。

(4) 順位の決定

同記録の場合、1位、2位、3位は1投の再投(追加試技)により決定する。再投は、順位が決定するまで行う。4位以下の者が同記録の場合は、再投は行わず同順位とする。再投の記録は公式記録としない。

(5) 反則

- ① スローイングエリア外から助走をした時。
- ② その他のスローイングに関する反則は、アキュラシー競技と同様に扱うものとする。

(例)

No.	ゼッケン	選手名	都道府県	1投	2投	3投	再投	記録	順位
1	868	A	茨城県			29.37		29.37	2
2	1544	B	新潟県		12.55			12.55	6
3	2156	C	岐阜県	25.05				25.05	4
4	3242	D	高知県			10.50		10.50	7
5	3931	E	東京都	26.69		28.35		28.35	3
6	6166	F	静岡県	20.77				20.77	5
7	6170	G	静岡市		9.67			9.67	8
8	5234	H	愛媛県	32.53				32.53	1